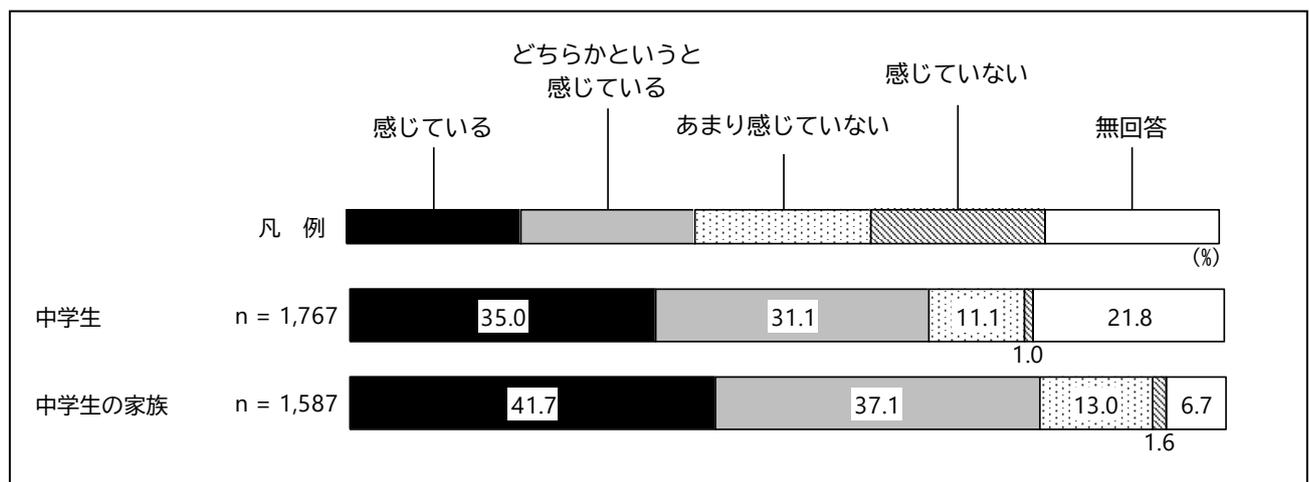


Ⅲ. 令和 6 年度集計結果

【集計方法について】

- 認識度は、それぞれの生きものについて「見た」、「聞いた」と答えた人の割合（％）で示している。
- この調査は、仙台市内のまちの中や山、川などでの確認を基本としており、販売又は展示、飼育されているもの確認は対象としていない。
- それぞれの回答の割合（％）は、四捨五入により小数点第 1 位までを示しているため、設問によっては合計値が 100％にならないものもある。
- 複数回答は無効とした。

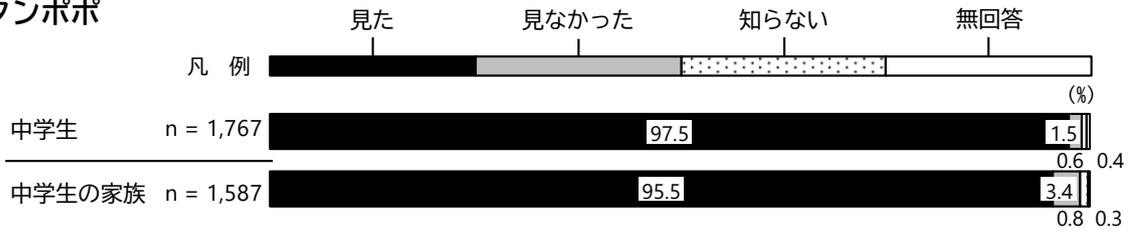
1. 自然に親しみを感じていますか



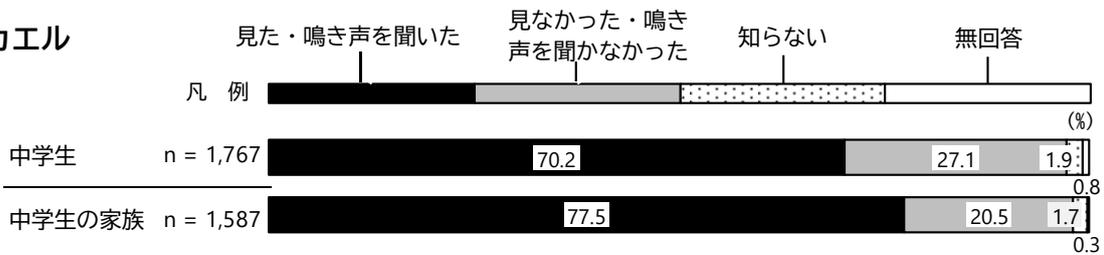
「感じている」と「どちらかというと感じている」を足し合わせた『感じている』との回答は、中学生では6割以上、中学生の家族では7割以上となっており、中学生の家族は中学生に比べて10ポイント以上高い。

2. 生きものの姿を見たり、鳴き声を聞いたりしましたか（1年以内）

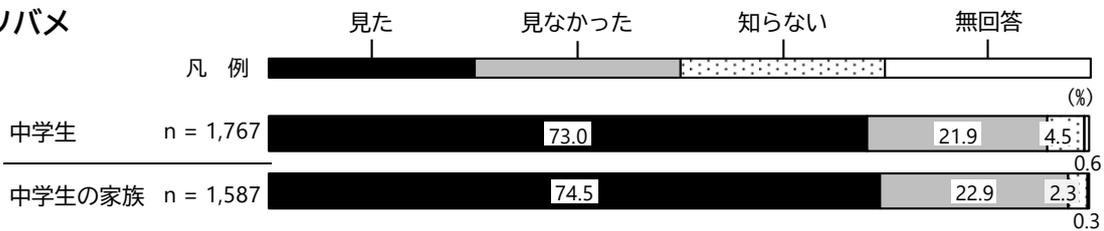
① タンポポ



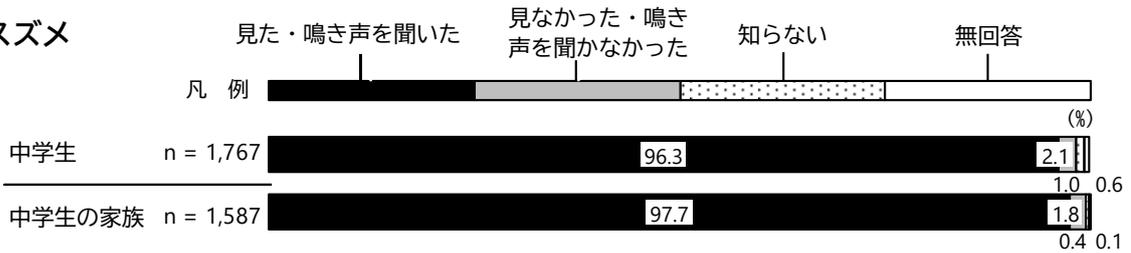
② カエル



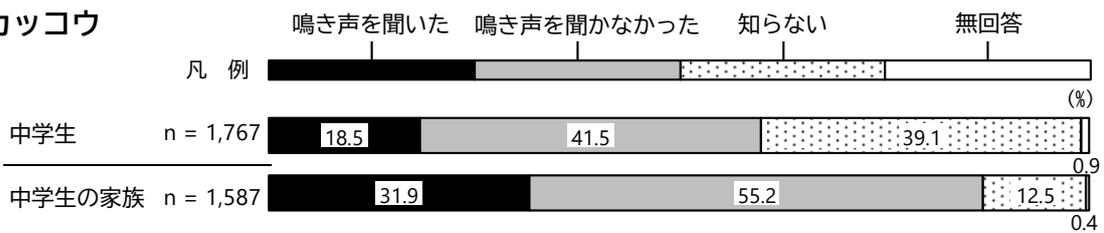
③ ツバメ



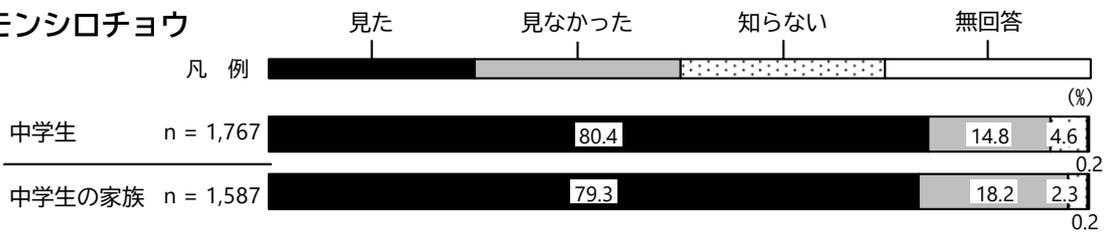
④ スズメ



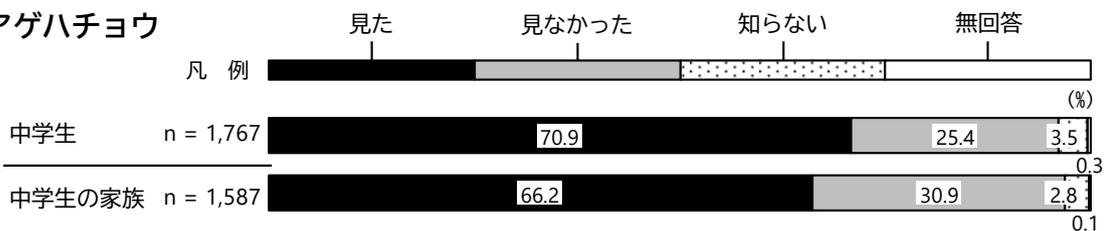
⑤ カッコウ



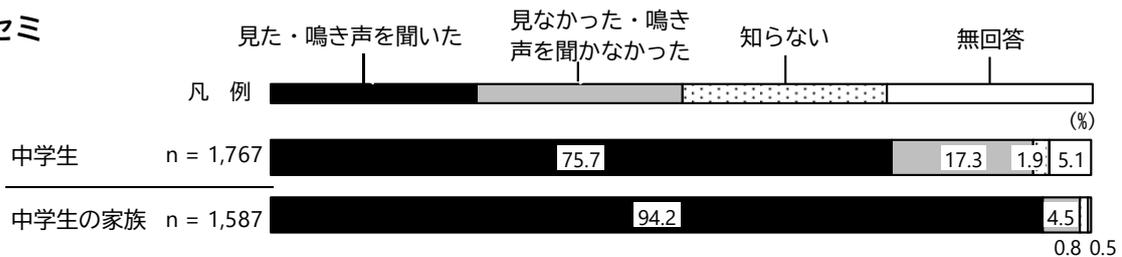
⑥ モンシロチョウ



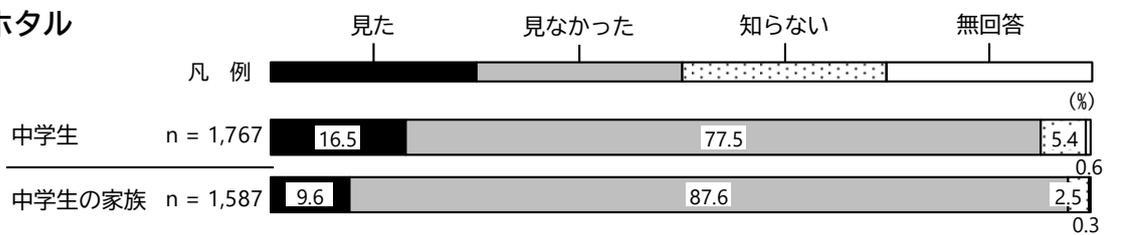
⑦ アゲハチョウ



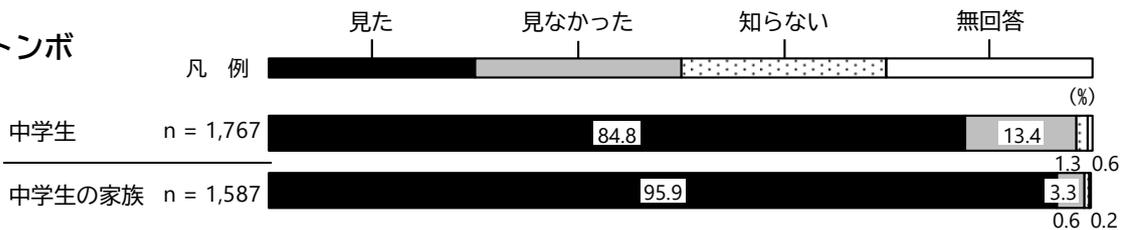
⑧ セミ



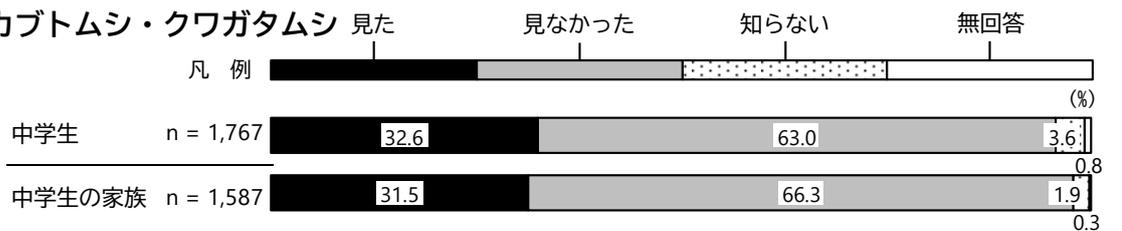
⑨ ホタル



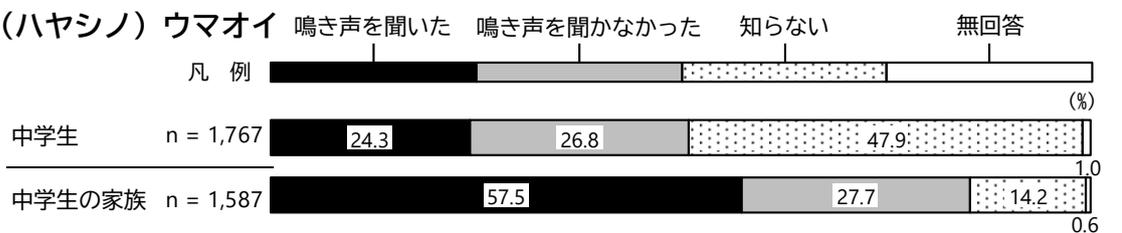
⑩ トンボ



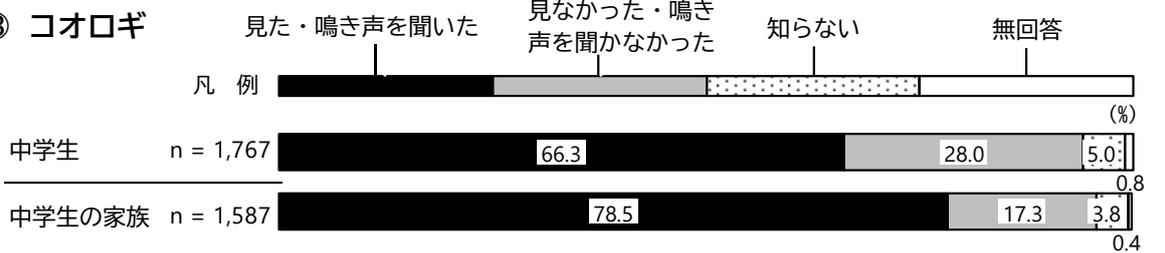
⑪ カブトムシ・クワガタムシ



⑫ (ハヤシノ) ウマオイ



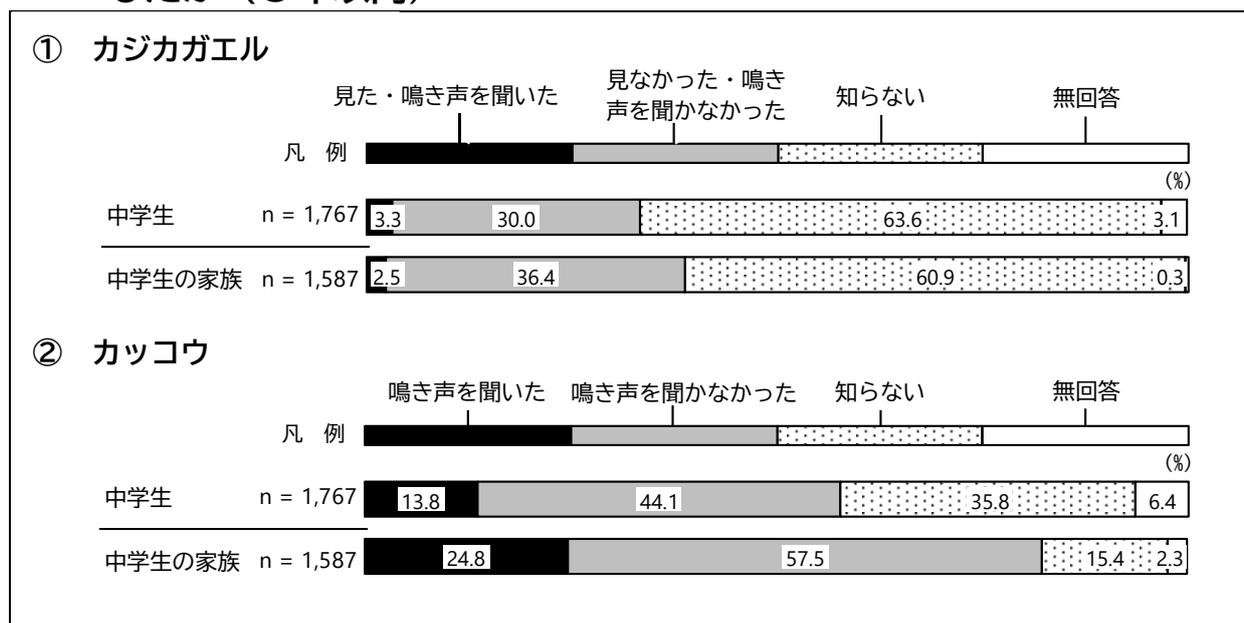
⑬ コオロギ



13種の認識度について、「タンポポ」、「スズメ」、「トンボ」では、中学生、その家族ともに8割以上と高い。一方、「カッコウ」、「ホタル」、「カブトムシ・クワガタムシ」では、中学生、その家族ともに4割以下と低い。

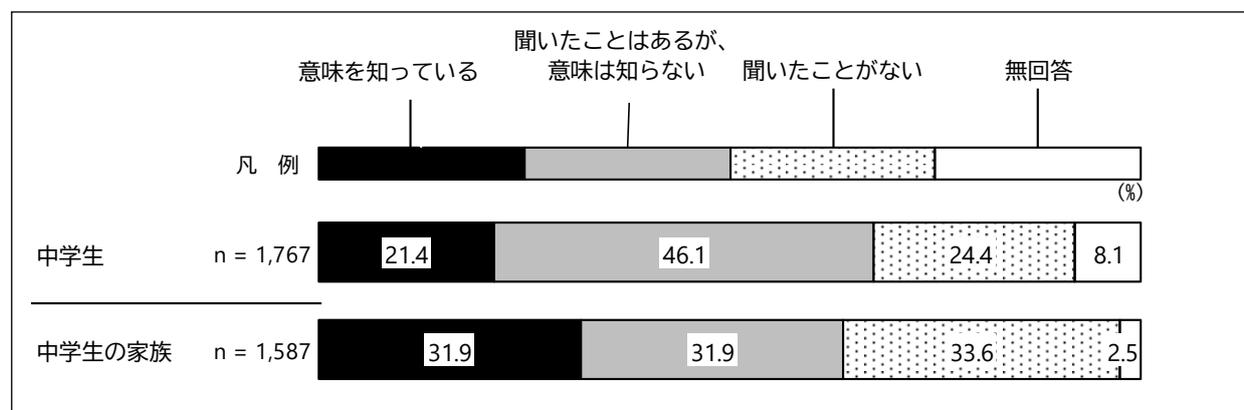
中学生とその家族の認識度の差に着目すると、「カッコウ」、「セミ」、「トンボ」、「(ハヤシノ) ウマオイ」、「コオロギ」では、中学生の家族は中学生に比べて10ポイント以上高い。また、中学生とその家族の「知らない」の差に着目すると、「カッコウ」、「(ハヤシノ) ウマオイ」では、中学生はその家族に比べて20ポイント以上高い。

3. 仙台にゆかりのある生きものの姿を見たり、鳴き声を聞いたりしましたか（3年以内）



「カジカガエル」の認識度は、中学生、その家族ともに5%以下にとどまっている。「カッコウ」の認識度は、中学生、その家族ともに3割以下となっている。

4. 生物多様性という言葉を知っていますか



生物多様性という言葉について、中学生では「意味を知っている」、「聞いたことがない」ともに2割台となっている。一方、中学生の家族では、「意味を知っている」、「聞いたことがない」ともに3割台となっている。